

# 子ども国際理解サマースクール

田巻松雄（国際学部附属多文化公共圏センター長）

## 1. 事業の目的・意義

2017年8月9日、宇都宮市教育委員会東生涯学習センターと国際学部附属多文化公共圏センター HANDS プロジェクト部門の協働で「子ども国際理解サマースクール」を実施しました(8月8日と9日に実施予定でしたが、台風のため9日のみ開催)。本事業は、HANDS としては8度目となる多文化共生教育実践です。

前日の8月7日、気象庁の発表によりますと、8月8日は、西日本を通過した台風5号が東日本に達する見込みで、台風の動きが遅いため、東日本では大雨や暴風が長時間続く見込みでした。そのため、宇都宮市教育委員会東生涯学習センター長より連絡があり、児童の安全を最優先に判断した結果、7日の夕刻に、第1日目の8日は中止の決定をしました。第1日目の講座を担当する学生たちは、長い間、講座内容の検討・プログラム立案等、準備に勤しんできましたので、なんとか第1日目に予定していた内容を2日目に実践できるよう第2日目に組み込むことになり、プログラムを急遽練り直しました。

受講者は、宇都宮市内の小学生4年生～6年生で、今年は、22名の子どもたちが参加しました。宇大生は22人(田巻ゼミ生2人を含む国際学部の学生14人、カンボジア、ベトナム、ドイツ、台湾からの留学生8人)でした。

例年、第1日目の目的は、毎年、一つの国や地域をテーマに取り上げ、子どもたちの目を世界に向けるきっかけづくりで、第2日目の目的は、宇大生の学生団体 HANDS Jr や宇大留学生などの企画・支援のもと、かれらと直接交流しながら、参加小学生たちの国際感覚を養うことです。今年は、第1日目が中止となりましたので、1日でその両方の目的を達成すべく、内容を凝縮させた分、充実した国際理解教育の実践となりました。

## 2. 事業内容

### (1) 参加型講義

午前の部：8月9日午前10時～昼食まで  
テーマ「世界を知ろう&世界から学ぼう 2017 ～フィリピン編～」

### (2) 国際交流

午後の部：8月9日昼食後～午後2時まで  
テーマ「世界を感じよう 2017 ～宇大留学生たちとの交流～」

## 3. 事業の進展状況

### (1) 午前の部

テーマ「世界を知ろう&世界から学ぼう 2017 ～フィリピン編～」

フィリピンにルーツのある田巻ゼミ生の小野寺まゆみ（国際学部4年）さんが中心となって、フィリピンについて学びました。



まずは、アイスブレイクとして、フィリピンについての4択クイズを行いました。地理的な問題から始まり、約7,000という島の数に驚きました。

2つ目の活動として、『Let It Go』をフィリピン語で歌いました。

そのあと、Ako si TARO. (わたしは太郎です。) という自己紹介や、Ang pogi mo. (あなたはかっこいいですね。) など、友だちを褒める言語活動を取り入れ、挨拶と同時に常に褒めるコミュニケーションをするフィリピン流のコミュニケーション

を楽しみながら体験しました。

そして、フィリピンの子どもたちの遊びの一つ、バンブーダンスをしました。「1, 2, 3, 1, 2, 3」と3拍子のリズムの曲に合わせて、開いたり閉じ



たりする竹に足が挟まらないようにダンスします。はじめは難しそうに見えたこの遊びでしたが、練習するとすぐに子どもたちは上達し、楽しんでいました。

休憩時には、フィリピンの清涼飲料「カラマンシージュース」の試飲をしました。主原料は柑橘の果物カラマンシーの果汁です。甘酸っぱいさわやかなジュースを「おいしいね!」、「おかわりしたい!」といいながら味わいました。

午前の部の後半は、「ゴミの山で暮らす子どもたち」と題したワークショップを行いました。毎日、異臭、危険物による事故、火災、水質汚染、崩落など、極めて危険な状態でのゴミの山で生活しているフィリピンの子どもたちの現状を知りました。ゴミの山から少しでもお金になりそうなものを拾い集めては、換金し、家計の足しにと一生懸命に生きる子どもたち。危険と隣り合わせの中での重労働。参加した児童たちに少しでもその現状を体感してもらおうと、今回、新聞紙や広告などをゴミに見立て、拾い集めて分別し、計測し、換金してもらいました。ゴミの山でのゴミ拾いの収入は、たくさん集めても、一日中働いても、僅かな食料相当分のお金にしかならないそうです。同じ地球で生きる子どもなのに、置かれている環境が違うことを知った児童たちは、その「気づき」を今後の生活の中で活かしてくれることでしょう。

このワークショップのために、フィリピンへの人道支援活動を続けている MNKFI (Mirai Ni Kibou Foundation Inc. 未来に希望財団) 日本代表理事の仲田和正さんに多くのアドバイスや資料の提供など協力いただきました。

## (2) 午後の部

テーマ「世界を感じよう 2017 ～宇大留学生たちとの交流～」

本学には、世界の30の国・地域から237名の留学生が学んでいます(本学学務部留学生・国際交流課調べ、2017年5月1日現在)。今回は、カンボジア、ベトナム、ドイツ、台湾出身の8名の留学生が参加しました。外国人児童生徒教育支援や国際理解活動に強い関心を持つ学生団体 HANDS Jr の学生たちが熱心に企画・準備・運営し、留学生と連携しながら、それらの4つの国や地域を中心



に学ぶ交流内容を何日も何日も考えました。以下の3つの活動を中心に交流することができました。

### ①交流ゲームA「スプーンレース」

手に持ったスプーンにピンポン球を乗せて大きな円を一周するグループ対抗レースです。ピンポンの“バトン”が渡ると、落とさないように慎重になりつつも、どのチームも1位を目指してゴールまでがんばりました。

### ②交流ゲームB「ふわふわバレーゲーム」



まず、児童たちはワークシートで、留学生の各言語での指示の数の言い方を学びます。普段耳慣れない発音に悪戦苦闘していました。どのチームも手をつないで丸い円を作り、風船を落とさないように何回連続してポンポンできるか等を競いました。数は、最初に学習した留学生の言葉で数えました。

### ③国際理解ゲーム「4 Corners Quiz」

パワーポイントを使って、留学生の出身国ごとに4択クイズを出題しました。日本との位置関係についての出題やその国で有名な料理を選ぶクイズなど、留学生たちが用意した問題が出されました。児童が正解だと思う答えのコーナーに移動してもらい、正解を発表し、留学生による補足説明を行いました。例えば、「A にんじん、B かぼちゃ、



C 白菜、D キャベツのうち、カンボジアから日本へ伝わった野菜はどれでしょうか？」の問いに、A だと思う人はAのコーナーに移動します。当たれば、のちにポイント換算するシールをもらえます。すぐに分かってしまう問題もあれば、私たち大人もどれだろうと少し悩む問題もありました。

閉校式では、宇都宮市東生涯学習センターの大貫真一所長、宇都宮大学側を代表して原田真理子先生よりあいさついただきました。解散後、学生や留学生たちに駆け寄ってあいさつしたり、握手をしたり、別れを名残惜しそうな児童たちを見て、この交流の目的を達成できたのではないかと思います。

## 4. 事業の成果

参加小学生からは、本スクールに対して概ね高い評価が得られました。アンケート結果の内容等から、フィリピンをテーマとする参加型授業と本

学留学生との交流事業に参加したことで、参加小学生の国際的な関心や国際感覚が大いに増大したと判断されます。また、本学留学生と日本人学生は本スクールの企画・運営を担ったことで、実践的な国際理解教育を推進する力を向上させました。参観いただいた保護者の方々からも非常に有意義なイベントだとの評価をいただきました。

## 5. 今後の展望

国際的な視野や感覚を養い、多文化共生教育実践は初等・中等教育で益々重要となっております。しかし、学校単独での教育実践はなかなか進んでいないのが実情です。従って、この様なスクールの重要性は極めて高いといえます。参加者からは概ね高い評価を得てきました。リピーターも何人か出ています。この大きな理由は、学校現場での国際理解教育がまだ少ないことに加え、本スクールでは、大学と行政が協力連携しながら何度も協議を重ねて用意周到に計画を立て実施してきたことにあります。また、近年、小学校でも英語教育が取り入れられ、アメリカをはじめとする英語圏の異文化理解や交流は進んでいるものの、英語圏以外、とりわけアジアの文化に目を向ける機会にはあまり恵まれていない小学生にとって、国際的な問題関心と国際感覚を養う貴重な場となっており、参加大学生にとっては実践的な国際理解教育を経験する貴重な場となっています。国際学部の学生・大学院生、留学生と学生団体 HANDS Jr の人



的資源等を活かした効果的な地域貢献・人材育成事業となっており、今後も継続的に実施していきたいです。